

第1回香川県大阪・関西万博推進協議会 議事録

令和5年9月6日(水)14:30~16:15

香川県庁本館 21階特別会議室

○ 事務局（政策課長）

定刻が参りましたので、ただいまより、第1回香川県大阪・関西万博推進協議会を開催いたします。

開会にあたりまして、本協議会会長の池田知事より御挨拶を申し上げます。

○ 池田知事

皆様こんにちは。知事の池田豊人でございます。

本日は、大変お忙しいところ、この香川県大阪・関西万博推進協議会にお集まりをいただき、誠にありがとうございます。

いよいよ、大阪・関西万博開幕まで1年6ヶ月余りになりました。今日は、万博協会の堺井担当局長様にも後程、準備の状況、また、開催の内容についても御説明をいただけることになっております。堺井局長には遠いところからお越しいただき、ありがとうございます。

大阪・関西万博は、2,800万人を超えるお客様を想定しているところであります。私も、20年近く前になりますけれども、名古屋で長く勤務をしております。愛知万博、「愛・地球博」が2005年に開かれましたが、その直前まで勤務しておりました。その際にも、1年を切ったあたりから急激に盛り上がりを見せていた記憶がありますし、その後、実際の開催のときには東京勤務に戻っていましたが、訪れた際には非常に盛り上がった万博で、その後のフォローアップも非常に良かったのではないかという評価があったことを覚えております。是非、この大阪・関西万博も、そのような万博になるものと思っております。

そして、大阪・関西万博の会場は、会場が海上というシャレじゃないですけども、海の上にありますので、香川県の財産である瀬戸内と親和性も非常に高い、連携していろいろな取組みをするためのチャンスも多いと思います。まして2025年は、瀬戸内国際芸術祭の開催年でありまして、今、香川県で力を入れております県立アリーナのオープンする年でもありますので、いろいろな相乗効果によって一層の交流拡大が図られるのではないかなと思います。

これから、香川県全体として、情報の発信と交流の拡大の二つのポイントに力点を置きながら、この万博を盛り上げていくために香川県としてできることを行い、それを通じて、万博に訪れるお客様が香川県の方にもたくさん訪れていただけるようにしていきたいと思っております。

今日は、万博の公式キャラクターのミャクミャクにも来ていただき、盛り上げていただいております。この今日の協議会が、万博に向けての取組みの良いキックオフになりますように、限られた時間ですけれども、建設的な御意見をいただけますようお願いいたします。

申し上げ、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 事務局（政策課長）

それでは、議事の進行に移る前に、会員の皆様方を御紹介させていただきます。配付しております名簿順に御紹介をさせていただきます。

- ・ 一般社団法人香川経済同友会 佐藤代表幹事様
- ・ 香川県市長会 山下会長様
- ・ 香川県町村会会長様の代理で小林副会長様
- ・ 四国経済産業局 原局長様
- ・ 四国経済連合会 佐伯会長様
- ・ 香川県商工会議所連合会 泉会長様
- ・ 香川県商工会連合会 篠原会長様
- ・ 香川県中小企業団体中央会 国東会長様
- ・ 香川県農業協同組合中央会会長様の代理で岡田代表理事常務様
- ・ 香川県漁業協同組合連合会代表理事会長様の代理で寒川常務理事様
- ・ 公益社団法人香川県観光協会会長並びに香川県ホテル旅館生活衛生同業組合理事長三矢会長・理事様
- ・ 一般社団法人日本旅行業協会中四国支部香川地区委員会 西尾委員長様
- ・ 一般社団法人全国旅行業協会香川県支部 西岡支部長様
- ・ 一般財団法人かがわ県産品振興機構 小川理事長様
- ・ 四国旅客鉄道株式会社代表取締役社長様の代理で藤本常務取締役様
- ・ 高松琴平電気鉄道株式会社代表取締役社長様の代理で藤本鉄道事業部運輸サービス部長様
- ・ 一般社団法人香川県バス協会会長様の代理で今西専務理事様
- ・ 香川県タクシー協同組合理事長様の代理で岡専務理事様
- ・ 香川県旅客船協会会長 堀川会長様
- ・ 全日本空輸株式会社高松支店 細谷支店長様
- ・ 日本航空株式会社高松支店支店長様の代理で永田アカウントマネジャー様
- ・ 高松空港株式会社 小幡代表取締役社長様
- ・ 香川大学 算学長様
- ・ 株式会社百十四銀行取締役頭取様の代理で片山地域創生部地域創生グループ長様
- ・ 株式会社香川銀行取締役頭取様の代理で谷川法人コンサルティング推進部上席調査役様

会員の皆様方におかれましては、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、先ほど知事からも申し上げましたとおり、本日は、大阪・関西万博公式キャラクターのミャクミャクにも御登場いただいておりますが、ミャクミャクには一旦御退場いただきます。また後程、皆様方と記念撮影の時間を設けたいと思いますのでよろしく

お願いいたします。

当協議会は、規約に基づきまして、会長である池田知事が議長を務めることとしております。以降の議事進行をよろしくお願いいたします。

○ 池田知事

それでは、早速議事に入らせていただきます。

先ほど御紹介したとおり、今日は、博覧会協会の堺井局長様においでいただきましたので、まず議題1、大阪・関西万博の現状等について、堺井局長様より御説明をよろしくお願い申し上げます。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

貴重な場、そしてトップバッターという形で御説明をさせていただきますが、どうぞよろしくお願いいたします。

大阪・関西万博主催者団体から参っております堺井と申します、今日はよろしくお願いいたします。

お手元の資料1の2ページ目に、2025年に大阪・関西万博という略称を持っていますが、日本国際博覧会という形で、国を挙げて実施する、そういった万博が、2025年にやってくるということになっています。

開催期間は、4月13日から10月13日の184日間の開催になります。テーマがとても大事でございまして、万博は2000年に入ってから、多くの世界の国々が集まるので、これまではお国自慢のような形で、一番進んでいたものを持ってきて、見せ合いをするという感じだったのですが、世界的な課題を取り上げて、それをテーマにして、各国持ち寄ろうじゃないか、そのテーマのソリューションを持ってきて、やっていこうじゃないかという趣旨になってきています。

「いのち輝く未来社会のデザイン」という「いのち」がキーワード、また、「未来社会」がキーワード、そういう形でテーマを設定させていただいたところです。サブテーマの「いのちを救う」、「いのちに力を与える」、「いのちをつなぐ」という形で、いのちにまつわるテーマにしている、また、全体のコンセプトとして未来社会の実験場という形になっています。2030年2050年には、こういう社会になっているのではないか、そういったものを、この25年の段階で見せていくというのが趣旨でして、まだ世の中に普及してないものなんかを、どれだけ出していくかということをやっていきたいと思っています。

また、非常に大事なのが、地球環境問題。温暖化などをはじめとするSDGs、持続可能な地球をどのように作っていくかということで、国際連合の目標年2030年に向けた、ちょうど5年前のこの万博は非常に注目をされています。ここで道筋を明らかにできないと、2030年の掛け声倒れに終わってしまうじゃないかという形で、SDGsの達成に向けた取組みというのも、万博の大事なテーマとして設定しています。

先ほども御紹介ありましたが、会場は海に囲まれたところで開催します。この香川県とは、海を通ずると隣という場所で、万博は開催されます。

来場者 2,820 万人を想定しておりますが、海外の方が 350 万人の想定です。約 1 割強ですけれども、こういった方々に、日本に万博があるから、2025 年に日本に来ようと思っていただき、万博を見ていただくだけではなく、テーマを実践しているような地域にも足を運んでもらい、そこで自然と共生しているものを見てもらったり、また、食文化、あるいは様々な歴史文化を見ていただいたり、そういうことを楽しんでもらうということも非常に大事ななと思っています。

日本は、狭いところでもあり、万博で未来を見せると言いますが、それ以外のところをどんどん知っていただきたいという想いもありますので、万博プラス観光ということで、地域に来ていただくことも非常に大事と考えています。そういった万博になるように期待をしていますし、皆様と一緒に作っていかれたらと思っています。

万博の意義など、資料 3 ページにも書いていますが、SDGs ということも大事に掲げています。未来社会を見せていくというのも、あるいは、これによって経済・社会・文化などのあらゆる面で、大阪関西のみならず日本全体にとって更なる飛躍の契機とするということをやっていきたいと思っています。

世界に向けて、万博を通じて発信するということが大事であると思っています。こうした中で、この香川県に魅力的なところがあるので、足を運んでいただき、香川のことも知ってもらいながら、世界に広げていっていただくということも大いに期待できるのが万博だと思っています。

資料 4 ページ目は、万博の会場ですが、地下鉄大阪メトロの中央線が一駅延伸して、隣接のところに駅ができます。また、船の発着想定場所と書いてありますが、船での往来も予定しようとしています。

会場デザインなどは、資料 5 ページになりますが、世界最大級の木造建築になるような形で、高さ 12 メートルの大きなリングが建設されます。このリングが特徴的なもので、全て木造で作ります。円周一回り 2 キロ。ここに上ると、海と空が一つになったように見えます。

資料 6 ページが万博全体の会場図ですが、今申し上げた大屋根リングが真ん中にある、その中にはパビリオンが並び、海外からは、153 ヶ国がパビリオンを出されて参加されます。非常に国際色豊かなものになります。その周りに、民間パビリオンが 13 あります。日本政府館があり、大阪パビリオン、関西パビリオンというのがあります。またイベント、催事をする施設があります。184 日間 1 日たりとも同じイベントをやっていないという形で、万博は、毎日、中身が変わって行って展開されるものになっています。

資料 7 ページ、今は 2023 年です。今年はパビリオンの敷地を引き渡し、建設工事も始まり、また 11 月 30 日に前売り入場券の発売開始になります。いよいよ機運が盛り上がっていくという形です。そういう中で、料金を発表させていただきました。

資料 9 ページにあります、前売り券を早く買っていただくと、最初の開幕の 2 週間、これは大人 4,000 円で購入いただけます。また、次世代の子供たちへの配慮もして、大人の四分の 1 の価格。ここに書いてあるように 1,000 円とかですね。前売り券になると、最初の 3 ヶ月間ですが、大人 5,000 円に対して、子供 1,200 円と、こういった値段設定で展開をしています。団体割引というものも設定していて、修学旅行あるいは校外学習で

万博を訪問していただける時に非常に安い値段設定が出されているのが学校関係です。また、一般の団体割引もやっています。様々な券種を用意して、多くの方に来ていただけるように取り組んでいるところです。

資料 14 ページ、行催事が展開されます。万博では、ちょうど資料 15 ページのようにイベントをする場所が設定されております。2,000 席ある劇場型の大催事場や、4,000 m² あるメッセ会場、あるいは屋外イベント会場は、1 万人規模の会場とか、そういったもののほかにも用意をさせていただいております。

そこで、資料 16 ページにあります。自治体におかれましては、今日、自治体あるいは経済界の皆様、教育界の皆様方も含めて、地元の皆さんで、是非、地域、香川県を PR するような形で催事を実施していただいたら良いなと思っています。

自治体の参加催事というものがありまして、ちょうど香川県さんから、催事の企画を提出いただいているところです。

また、資料 17 ページには、テーマウィークというのがございます。こちらについても企画案を提出していただいているところです。協会としてはそういう形でいただいたものを受けて、今、見ておりますけども、9 月末までには内示をさせていただきたいと思っています。香川県さんには是非やっていただきたいと思います。どの場所でもどのような形でやっていただきたいという話を連絡させていただきたいと思っています。

また、一般参加催事というものもあり、9 月 15 日から募集が始まります。年内を申込期限としますが、多くの方々が万博でイベントをやろうという時に登録をいただければと思っています。

あと、万博会場では営業参加や、飲食物販の場所も用意をしています。また、先ほど少し話をしました資料 23 ページから、万博に観光でお越しいただく、特に海外の方にお起こしいただくための施策も考えています。2025 年はちょうど瀬戸内国際芸術祭の開催年です。そこで多くの方が来られます。コロナ禍でインバウンドがどうしても来られなかったのが昨年 2022 年だったと思いますが、2025 年はそういった方々を含めて来られると思います。万博に来られる方にも、瀬戸芸に来ていただく。瀬戸芸に来られた方も万博に来ていただく。相互の誘客というのをしっかりやっていきたいなと我々も思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

そこで、瀬戸芸に限らず、資料 24 ページには万博の観光ポータルサイトというのがあります。万博協会で、このポータルサイトを運営したいと思っています。ここでは、2 泊 3 日のツアーや日帰りツアーや体験コンテンツ、こういったものを登録していただいて、これ単に情報登録するだけでなく、旅行商品として出していただいて、ここで販売する機能を持たせていこうと思っています。

特に情報発信するだけだと魅力的だと思うが、実際どのようにして行ったらいいのかという時に、旅行商品になってそれを購入していただくということが必要だと思っています。値段をつけて、しっかり魅力をアピールしていただきながら、実際それを購入いただいて、来てもらうということが大事ななと思っています。

外国の方で、例えばクルーズ船で来られる方、たくさん来て、たくさん買い物もして戻ってもらうということもありますけど、そういったことよりも、もう少し小さなグル

○ 新池政策部長

政策部長の新池でございます。私の方から説明をさせていただきます。

皆様方におかれましては、大阪・関西万博への対応につきまして、これまで御協力をいただいております、感謝申し上げる次第でございます。

開幕まであと1年6カ月余とういことで、本県としましても、万博の開催を香川県の活性化に生かすため、先程の堺井局長からも活用と発言がありましたが、取組みを加速していく必要があると感じているところで、県では、7月24日に、庁内に万博推進本部を設置し、取組方針などについて部局横断的に取り組むということを決めました。

さらに、皆様方と連携して、幅広い取組みを推進することが重要ですので、今回の協議会を発足させていただきました。この協議会を通じ、いろいろな団体の皆様方、オール香川で取り組んで参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、資料3、取組み方針をまとめたものに沿い、御説明をさせていただきます。

右上に記載しております、この取組みのねらい、先ほど知事からも発言がありましたが、万博の開催は日本、大阪への関心の高まり、交流の拡大、これを本県に取り込んでいこうとする大きなチャンスということで、本県の魅力・情報を効果的に発信して観光誘客やビジネスチャンス創出につなげていきたいということであり、特に2025年は次回の瀬戸芸の開催、県立アリーナのオープンなどが予定されていることから、相乗効果によって交流人口をさらに拡大したいと考えています。

そこで、取組みの方向性として、これも知事から発言がありましたが、大きく2本柱、一つが本県の魅力や強みなどを万博会場内外でアピールする情報発信、それからもう一つが、インバウンドを含めた誘客促進や交流イベントの開催などによる交流拡大、2点に力点を置き、万博の会期前会期中様々な取組みを展開したいということで、以下資料には、現時点で検討しております主な取組みの例を表に掲げています。

まず、情報発信の取組み例としては、万博会場内での自治体催事の出展と、テーマウィークへの出展がございます。

この二つは、万博協会が都道府県・政令指定都市等を対象に募集する催事で、自治体が提出した企画概要を確認し、各自治体に会場や日程が割り振られるものであり、先程堺井局長からもお話がありましたが、本県もこの企画概要を6月末に万博協会に提出しています。

ここで、この二つの中身として、資料4は、自治体催事として万博協会へ提出している企画概要でございます。本県としては、豊かで美しい自然、豊かな食文化、伝統文化、現代アートという本県の魅力を、古と現代、未来を体験できる演出を加えて発信したいと考えており、催事の内容につきましては、事前に庁内や各市町、経済団体からの御意見を伺いながら取りまとめたところです。

本県の魅力である瀬戸内海の多島美、次回の瀬戸内国際芸術祭、アート作品・建築、また、代表的な観光地、四国遍路などを、パネル・映像・VRを用いて発信しますとともに、さぬきうどんの手打ちの実演などを交えながら、食や県産品などの飲食物販も行うこととしているところでございます。

資料3 ページ目で、パフォーマンスというところでございますが、獅子舞や風流踊り

など各地域で受け継がれている伝統芸能の披露に加え、本県が発祥の地である全国高校生花いけバトルなどのパフォーマンスのほか、丸亀うちわ、香川漆器などの伝統的工芸品について展示やワークショップを通じてPRをしたいと考えているところでございます。

実施に当たりましては、未来をデザインするという万博のコンセプトを踏まえ、香川の将来を感じられるよう、アーティストやクリエイターとの共創による新しい魅せ方を検討して参りたいと考えております。

会場につきましては、万博会場内にメッセ会場があり、出展を希望しておりますが、伝統芸能のパフォーマンスなどにつきましては、日本伝統文化エリアなどのステージ付きの会場での実施を希望しています。日程・会場につきましては、万博協会による全体調整の中で決定されますので、自治体催事につきましては、メッセ会場の使用希望が多数出ているというような状況とお伺いしており、他の自治体等との分割使用になり得るという可能性もあると伺っています。

続いて、資料5のテーマウィークの企画概要をご覧ください。テーマウィークは、週単位でテーマが設定された催しで、万博協会から示された八つのテーマがございます。その中で、「地球の未来と生物多様性ウィーク」において、香川県の発展と豊かで美しい自然や瀬戸内海との共生に係る課題、その解決に向けた本県の取組みについて、展示や体験等を通じて発信する内容としているところでございます。

内容としましては、海ごみで作るアート作品の展示やワークショップ、ミニライブなどを実施し、本県の里海づくりに関する取組みなどを発信していきたいということで、これも日程につきましては、万博協会から各テーマ、1週間ごとに期間が設定されますが、現時点では未定でございます。

自治体催事・テーマウィークはいずれも、詳細な企画書を万博協会に、10月末頃までに提出する必要があるため、今後庁内の関係部局や皆様方関係団体からの御意見を伺いながら出展内容を固めていきたいと思っております。

続きまして、資料3へ戻っていただき、取組み例の続きでございます。

情報発信の取組み例の三つ目になりますが、SNS等を活用した情報発信としては、会場外のバーチャル空間での本県の魅力の演出などデジタル技術を活用した訴求力のある情報発信も検討していきたいと考えております。

また、国内外から来場者などに本県への観光や食に関心を持っていただくために、SNS、インターネット広告などを活用した情報発信、JNTO（日本政府観光局）などの国際機関と連携した情報発信などにも取り組みたいということでございます。

続きまして、もう一つの柱、交流拡大の取組み例でございます。インバウンドを含む観光誘客の促進として、旅行会社や近隣県等と連携した旅行商品の造成販売などに取り組む。また、次の県産品の販路拡大としましては、本県の食や県産品の魅力を大阪市内等での百貨店やスーパー等でPRして参りたいと考えております。

三つ目の万博関連イベントの実施としましては、県内においても、多くの人に香川県を楽しんでもらうため、万博の会期に合わせた様々なイベントの実施などを検討することとしております。

また、交通アクセス対策としましては、高速バスの万博会場への乗り入れ等による県民や来県者の利便性の向上を検討していくほか、本県への交通手段に関する情報提供などを行うとともに県内の観光施設等におけるトイレの洋式化や多言語化、キャッシュレス化などの受入環境の向上対策を進めて参りたいと考えています。

併せて、万博に向けて県民向けに、万博の機運醸成等に関する取組みも行って参りたいと考えており、資料6の香川県における機運醸成の取組みというのをご覧いただきたいと思います。

これまで香川県では、県庁舎などに開幕までの日数を表示するカウントダウンボードの設置。それからポスターの掲出による装飾のほか、県庁舎やサポートのシンボルタワー前等のデジタルサイネージの活用。また、県公式SNSでの情報発信などを通じ、県民の皆さまに向け、万博のPRを行ってきたところでございます。

それから、資料6をご覧いただきますと、「TEAM EXPO2025」と言いまして、これも万博協会の取組みですが、多様な人たちがチームを組み、多彩な活動で、万博とその先の未来に挑むという、みんなが作る参加型のプログラムがございます。万博のテーマに賛同して自らが主体となって未来に向けて行動を起こしていくチームなどの活動を登録します。一つは共創チャレンジというのもございます。もう一つはこういった共創チャレンジの創出、それから支援をする法人団体等に登録いただく共創パートナーがあり、これも県庁におきましては、資料に記載の二つの事業を共創チャレンジとして登録しています。

これらの取組みにつきましては、それぞれの団体単位で応募して、登録することができるものですので、皆様やその関連団体におかれましても、それぞれが行っております取組みのPR等になることも期待できますので、万博の機運醸成に向けた積極的な登録をお願いしたいと思っております。

登録方法につきましては、万博協会が作成しております「TEAM EXPO 2025」のパンフレットを資料7としてお配りしており、それにQRコードや協会のホームページのアクセスなどの記載があります。

また、皆様方が、今後、開催されるイベント等におきましても、本日の会議にも駆けつけてきております公式キャラクターのミャクミャクなどにも来ていただくことができますので、そういったことで万博の盛り上げを図ることができますので、今後とも皆様と連携して様々な機会を捉え、機運醸成に向けた取組みを行ってまいりたいと思っております。

ここまで県の取組み方針を御説明しましたが、皆様方や関係者様にも参加いただける取組みとしては、例えば、先ほど、自治体の催事を御説明しましたが、9月15日からは、万博協会による一般参加催事の申し込みの募集が始まりますので、資料1の該当ページを御参考にしていただけたらと思います。

それから、秋頃に募集が開始される営業参加と言いますのは、規模が大きいものだと思いますけれども、レストランや土産物屋さんなどに企業が出展するといったものです。

民間事業者もこれから催事や、営業参加といったものについて募集が行われるということをお知らせしておきたいと思っております。

県といたしましても、引き続き情報収集を行いながら、得られた情報について随時皆様方に共有させていただこうと考えております。

次に、資料8をご覧くださいと思います。先ほどの県の取り組み方針に沿いました全体的なスケジュール感を現時点で示したロードマップでございます。今年度残り半年余りですが、この間で、企画立案や取り組み内容の検討を行いながら、情報発信や機運の醸成など、できることから取り組んでいく。それから、来年度になりましたら、今年度、企画立案したもの、例えば誘客のプロモーションなどは、率先して取り組みを始めていく必要がございます。万博開催の令和7年度に向けて着実に準備を進め、今後も具体化されるにつれて記載内容を充実していき、新たな取り組みが増えれば内容を更新したいと考えております。

それから、協議会の方では、皆様方の取り組み、そのスケジュールが一覧できる香川県版アクションプランという実施計画、10月頃を目途に作成して、万博開催までの道筋を立てながら一体感を持って取り組んでいきたいと考えております。

資料9ではサンプルとして、自治体催事の出展や大阪市内等での香川県産フェアの実施事業という検討中の二つ取り組みを挙げていますが、こういった取り組みを集めたものをアクションプランとして、10月末に初版を作成したいと考えていますので、皆様方の御協力をお願いしたいところでございます。

最後に、次回第2回の香川県大阪・関西万博推進協議会は、10月の下旬に開催を予定させていただいております。その場におきましては、先程申し上げた自治体催事とテーマウィークにかかる最終的な企画書を御確認いただきますとともに、先ほど申し上げた香川県版アクションプランの初版を皆様方と共有したいと考えていますので、どうぞよろしくお願い致します。

○ 池田知事

堺井局長、政策部長、御説明ありがとうございました。

まずは、どのことでも、質問でも結構ですので、どなたからでも御発言ありましたらよろしく申し上げます。

では、副会長申し上げます。

○ 一般社団法人香川経済同友会 佐藤代表幹事（香川県大阪・関西万博推進協議会副会長）

経済同友会の佐藤でございます。まだ若輩ではございますが、副会長の任をいただいておりますので、皆様に先立って議論の口火を切らせていただきたいと思います。

本当に今日はいろいろとありがとうございました。様々な情報が受け取れましたので、非常にまとまっていたと思います。

ただ少し感じましたのが、これだけ大きなイベントをするに対して、もうあと2年を切っている訳です。ですから、これからやらなければならない、実際に詰めていかなければならないこと、それに対して時間的にまだ大丈夫かどうかという懸念が一つありました。

ただこれは、今内容を見させていただいて、よく分かりましたが、最初に知事が言われましたとおり、目的は何かと、香川県の目的は何かということで、あくまでも情報発信と交流拡大という大きな目的のなか、当然二つの目的が、万博が終わっても続く訳であって、万博自体は先程、堺井局長から御説明いただいたとおり、一つの契機だと思えます。だからそういう意味では、先の万博後のことも捉えた上で、足を地に付けて着実に自分達のできることで時間調整などを考えていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

我々経済同友会とすれば、大小関わらず、香川県のいろいろな業種の企業が入っています。今すぐしなければいけないことは何を持って機運醸成からと思っています。こちらのほうを取り組んでいこうと思っています。以上でございます。

○ 池田知事

ありがとうございます。3点ほどいただきました。最初の点は万博の準備自身のこともあり、いろいろな最近の報道もありますが、堺井局長の方から今の準備状況についてのお話をいただけたらありがたいです。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

はい、2年切っていて、万博自体、今ニュースになっているのが、海外パビリオンの建設が間に合うか、海外パビリオンというのは、海外の方がお金を出すわけですけども、日本の建設会社に建設してもらおうと。そういう流れになってきます。日本の建設会社も、もちろん仕事はしたいけれど、どういう納期、どういう中身、どういう金額でそれをやるのかという詳細の情報が得られないと、契約行為になるので、そこまで届かないという状態があって、全体が遅れているかなという話があったのですが、今、関係者が必死になって情報のマッチングをうまくしながら取り組んでいます。そういった形でやっていきますので、涼しくなってくる頃には大分決まった国も出てくるし、見えてくるのかなと思います。

そういったことを、この秋にセットアップして、その後1年半切るかもしれませんが、万博の建設をやっていきます。自分の国が建てるものは50ちょっとくらいあるとされていますので、そういう方々。あと、残りの、153のうち100ぐらいは、我々が建てる場所にパビリオンを部屋の中に作っていくスタイルになってくる、そういったのが出てくるかなと思います。

実際万博の準備というのは、海外パビリオンだけではなく、未来社会でどういうふうなものを見せていくかといったところを体験してもらうことも考えていて、そうした時に、空飛ぶクルマの準備もしているし、カーボンニュートラルの世界を、水素社会の世界を、などといったことに取り組んでいたりします。ごみを出さないようなものにしようといった取組みもいろいろあります。また、パビリオンも、民間パビリオンが出てくるし、8人のテーマ事業プロデューサーのパビリオンも出てきます。そういったものは、着々と進んでいて、2025年4月に今のスケジュールでいくと、完全にオンタイムでできるようになってきます。

それらの準備が大変なのですが、個人の主観の話で恐縮ですが、海外パビリオンは取組全体の4分の1ぐらいを占めていて、あと4分の3ぐらいは、いろいろなことに取り組んでいるので、十分間に合うのかなと思っています。ですので、万博会場においては、25年の4月には皆さん受け入れられる状態になっていますので、是非そういった万博に期待して、香川県さんも、県としての準備をしていただけるとありがたいなと思います。

○ 池田知事

ありがとうございます。今、力強いお話がありましたので、是非、引き続きよろしくお話ししたいと思います。

二つ目はいわゆる情報発信について、万博後も考えてというお話で、そのとおりだと思います。それも含めてですが、これも堺井局長さんにもし、何かアドバイスがあればお話しいただけますでしょうか。自治体やそれ以外のいろいろなところから、いわゆる催事という形で企画を持ち込まれると思うのですが、どのような観点が、万博会場という意味においては関心を持ってもらえるかとか、何か留意するようなことがあれば、コメントいただければありがたいですけれども。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

ありがとうございます。万博の催事は、やはり香川県としての魅力を発信することだと思います。その魅力を感じていただいた方に、香川県に行こうっていう話になってくるようなものがあるといいなと思います。

そういう意味では、先ほど申し上げた旅行商品を作って、それを買ってもらうっていうのがダイレクトに響いてくるのかなと思います。逆に言うと、そういった旅行商品で魅力的なものを用意して、それを万博会場で、催事のイベントで披露する。そのリンクがあると、催事をやった効果も、実際お客さん来てくれているなど、買ってくれて、来てくれているという話にも結び付くのかなと思います。

万博は、4月から10月までの6ヶ月間です。香川県に来ていただいて、何を楽しんでもらうかというのは、その時期ごとと日ごとによって変わってくるだろうなと思います。季節性もあったりしますから、そういったものをうまく取り込みながらやっていくのかなと。

瀬戸内国際芸術祭などは非常に良い機会になると思います。1ヶ月ごとに間をあけて3回開かれるというふうに伺っておりますし、そういったところに合わせて、具体的に日付を入れて、香川県に実際に来てもらう時に良いものとして、お祭りなどもあると思います。そういったものに絡めて、具体的なプランをつくって、それを購入していただいて、来てもらうことに結び付けていくのかなと思います。各地域が、万博の催事、何をしようか。どういうふうに魅力を発信しようかということで、出て来ていただけることを期待していますが、そういった観点で、まさにやったことが成果として見えるのは、地域に来ていただくことだと、それで楽しんでいただいて、その情報発信をその方々にしてもらって、そういった流れが良いのではないかなと思っています。

○ 池田知事

たくさん貴重なアドバイスをいただきまして、ありがとうございます。

三つ目は、機運醸成をみんなでがんばろうということで、是非またこのメンバーで取り組んでいただきたいと思いますので、御協力お願いいたします。

○ 香川県市長会 山下会長

市長会会長の山下です。

このポータルサイトの件でお聞きしたいのですが、例えば万博に来られる方や、瀬戸芸などに来られる方は、大体スマホで情報をキャッチしていると思うのですが、このポータルサイトからこれらの情報をプッシュ方式で出すこととというのができないものかと思います。早い話が、このポータルサイトをどこまでカスタマイズしても良いのかということですが。

例えば、瀬戸芸で高見島や小豆島などに来ている方が、作品などをスマホで見たときに、この作者のアーティストの国のパビリオンが実は万博にこういうものがある、こういうテーマでやっていますよというのや、逆に日本館の展示を見ている方が調べている時に、瀬戸芸のこういう部分も同じテーマでやっていますよという情報をプッシュ方式で通知して、情報発信しても良いのかどうなのかなと思っています。それは自治体サイトで、SNSでやれば良いと思うのですが、そういうのも含めて、この方式だと、全国のDMOと連携できると思うので、このポータルサイトなどのカスタマイズの仕方やリンクの貼り方など、どこまでOKなのでしょう。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

ありがとうございます。今ポータルサイト構築中なので、いただいた御意見を踏まえてやっていきながら、そして我々の方のサイドと、あと皆様方のコンテンツをどう見せたいかといった作り込みのところがあると思いますけど、うまくリンクできると良いのではないかと考えています。

我々が今考えているのは、資料1の24ページにあるように、地域のイベントカレンダーを載せたり、地域商品検索ができる、あるいは予約もできるところを載せたり、地域のPR動画を載せたいなと思っています。

これらに、2泊3日のツアーや日帰りツアーなどのコンテンツを絡めて、商品を買っていただくような形にしようと思っているのですが、プッシュ式とは、最初のきっかけをどうするかなんですが、今少し考えている話を申し上げますと、検索の仕方の中で、例えば外国の方は、地名を言ってもあまり分からなくて、やりたいこと、体験したいことから検索できるようにしたいなど。その時に、例えば、多島美の素晴らしさ、あるいは島でやる芸術の素晴らしさを見たい、何かそういうふうに表現したときに、「瀬戸内」と言わないで、多島美や芸術が見たいと言って、じゃあ何が出てくるかなと「瀬戸内」の島が出てくるとか、そんな形でやりたいことからリンクしてやっていくというふうな誘導を考えております。

例えば日本館で、関心があって見たときに、その方のスマホに通知が飛んでくるとい

う技術は、どうやってやったらいいかちょっとわからないところがあるのですが、それは、例えば日本館の中で何か興味を持っているところがあったら、それに関わることを誘導して歩くという、日本館の中の歩き方の仕組みがもしあれば、その先このポータルサイトに紐付けて、万博会場の外に出て、それを体験してみませんかという話になったら、ここに入ってきて、そこに置いてある商品ですね、やりたいことから引っ張ってくる商品に結び付くみたいな話ができたらいいなと思ったりしますね。

そのあたりシステムでどこまで作れるか、限界があるかもしれませんが、いろいろなことをチャレンジしたいなと、我々も思っていますので、参考にさせていただきながら取り組んでいきたいと思っています。

○ 香川県市長会 山下会長

今の段階で、パビリオン内や会場内を、そういうスマホの案内やシステム、QRコードがいろいろなところにあっても良いと思いますが、このような形は、今のところ予定していないのですか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

会場の中で、パーソナルエージェントというシステム的な言い方をしますが、例えば、何時にイベントがあるよという話が、スマホで見えるような形にすることを考えていまして、そうしたら今自分がいるところからそこまで、どのルートでいったら何分ぐらい掛かって、それは、どのルートだと混んでいる、混んでいないとか、あと地図上の場所で、自分の行きたいところ、こういうものを見たいと言った時に、それに該当するのはこれだろうといったものが出てくるとか、そのパーソナルエージェントの機能は充実させようと思っています。それに対して、できれば、多分できると思いますが、自動翻訳のシステムを盛り込んでコミュニケーションも言葉の壁を無くすみたいなそんなこともやろうとしています。

そういうところで、今おっしゃられたような、会場でやっているイベントには辿り着くし、あるいは、会場の外で、興味のあるところがそこに紐付くやつができるかもしれません。

○ 香川県市長会 山下会長

多分できるのではないかなと思います。インバウンドの情報収集は、ほぼスマホだと思います。やはり旅の形もパーソナルになってきているので、スマホの中に全てが入るという形が良いのかなと思ったりしていて、万博などを見る人は意識が高いと思う。SDGsとか生物多様性などの部分、意識高いので、日本で本当に自然の生物多様性をみたいところに誘導するといったことが、面白いかなと思っているので、是非そこも、これは各県の紐付けの仕方、システムの組み方がカギになるのだろうと思いますが、そこをポータルサイトの方とうまくリンクができるようにしていただければ良いなと思います。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

ありがとうございます。スマホを通じた入り方は、やっぱりマストなのでしょうね。それで、うまくどこまで入っていけるのかというシステムの組み方で、先ほど私が言ったパーソナルエージェントは万博全体のサイトですので、それに観光のポータルサイトもくっつきまますし、例えば交通のMa a Sもくっつきまますし、いろいろな形で繋がっていくのがあるので、今おっしゃられたようなことを中で提案しながら、実現できると思いますね。

まさにそういったものも実現するとして、具体的にお客さんが関心持ったら来てもらえるようなそんな商品を、是非香川で作って頂けるとありがたいなと。そういうのがあるから、こういう仕組みで繋ごうよとも言えますので、そこも連携してできればいいなと思います。

○ 池田知事

ありがとうございます。関連はしないかもしれないけど、資料1の27ページに機運醸成のアプローチで、会場のフライスルー動画がありますね。

こういったものは、いろいろなところで流すと非常に良いと思うのですが、例えば申請書の提出が必要であるとか、この辺のハードルがどのぐらいのものなのか、フリーにしてもらえていけば、いろいろなところで使って、むしろ広がって良いのではないかなという気もするのですが。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

そうですね、実はYouTubeで引っ張って流せるので、それを使ってもらったら良いですが、ちゃんとダウンロードして使えるようなものを用意していますという感じで捉えていただければ良いかなと思います。申請書を出して、ダウンロードのURLを提供するというそれだけです。

YouTubeで引っ張れるので、人がお集まりのときに、こういうのを流そうということをやっていただいても実際は大丈夫です。

○ 池田知事

ほかに意見などあればお願いします。

○ 一般社団法人日本旅行業協会中四国支部香川地区委員会 西尾委員長

日本旅行業協会のJTBの西尾と申します。今日は本当に貴重な話をありがとうございました。

本当に長らく我々の業界は、非常に苦しい時代が続いたのですが、この日本で行われる大阪・関西万博を契機に、本当の意味での反転攻勢をしていきたいというふうに考えておる次第です。

今日お話いただいた、ポータルサイトの話になりますが、そちらの内容は、まさに世界の人に一番注目を浴びるサイトに、ここ四国における商品を登録できるということ、

また、プロモーションの最大化ができるということで大変期待しておる次第です。

資料1の24ページにある、2泊3日等のツアーについて大変詳しくお話をいただきましたが、現在実際に四ツ一創（一般社団法人四国ツーリズム創造機構）様を中心に、DMO（観光地域づくり法人）と協力しながら周遊商品を造成しています。そこで『リアルに必要なもの』というところをお話したいのですが、これは、香川県の取組み方針のところでお話をいただきましたけれども、まさに受入環境の向上というところがございます。必要な環境は国地域によって違うと思いますが、なぜそこでその体験をするのか。その背景を認識して頂く必要があります。四国においては、お遍路などはその象徴でございますが、歴史観や宗教観、あまりそこに特化しても難しすぎるといけません。こういったことは、コンテンツとして日本人向けには確立されているものの、多言語化ですとか、その背景を外国語で説明するガイドさんの育成の問題ですとか、精算におけるカードが使える、使えないとか、こういったところが地域間、それから業者間で非常に差があるというところで、ものは良いけど、なかなか2泊3日の商品にできない、断念せざるをえない、というふうなところがあります。まさに我々旅行業界として、そういったところを、つなげていきたいとは思っていますが、限界も多いというところで、受入環境の向上というところに期待しているところです。そういった背景も踏まえて、例えばどういったことを、香川県として取り組んでいこうかとしているかについて、もし例があれば、教えていただければ幸いです。

○ 新池政策部長

御質問の受入環境の整備、香川県としてどういったことをやっていこうということですが、やはり瀬戸内国際芸術祭等で問題になったのが、外国人の方が現金しか使えないということが、非常に多くございました。本県の場合はまだまだ一般の商店等でキャッシュレス化の対応ができていないところもありますので、先般もタクシー業界さんの方にもいろいろ御尽力いただいて、Pay Payなどが使えていなかったのも、県観光協会を通じて補助制度なども創設して対応しました。

インバウンドを意識しておりますので、資料3などにも書いていますキャッシュレス化、トイレの洋式化も、インバウンドも想定しています。受入環境の向上はインバウンドのことを中心に記載していますが、ガイドなども不足しがちですので、そのあたりの養成も考えているところでございます。

○ 一般社団法人日本旅行業協会中四国支部香川地区委員会 西尾委員長

ありがとうございます。自治体の催事会場の部分につきましても、様々な取組みのまさにプロモーションの広告塔として、我々も商品を提供させていただいて、実際にそこを見たお客様が四国に、香川に来ていただくよう業界としても頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

○ 池田知事

キャッシュレス化やトイレの洋式化は、この万博の後にも非常に大事な受入環境になると思います。この万博を契機に進んだなというふうになるように取り組んでまいりたいと思います。

ほかにありませんか。

○ 高松空港株式会社 小幡代表取締役社長

高松空港の小幡と申します。第1回目の協議会で高尚な話ではなくて恐縮ですが、瀬戸芸の期間と万博の期間が結構重なっているので、万博に来た人が、瀬戸芸に来てくれたら良いと思うのですが、例えば万博に行って万博のチケットを持った人が来たら、何か良いことがあるような、瀬戸芸のチケットのパスポートが少し安くなるとか、それはそれで難しければ、何かそれぞれの船の乗り場の港で記念品貰えるとか、万博から瀬戸芸に来たら良いことあるといったことがあると、それにつられてくる人っていうよりは、それがまたPRやキャンペーンみたいな形で、露出するっていう効果もあると思うので、何か直接的なお客様のメリットになるようなことっていうのも、お金もかかるのですけれども、そんなこともあったら良いかなと思いました。

○ 新池政策部長

ありがとうございます。確かに一つのアイデアだと思います。おっしゃる通り万博のチケットを持ってくれば瀬戸芸のパスポートを安くすることや、あり得ないとは思いますが、瀬戸芸のチケットを持っていったら万博の入場券が安くなるなど、万博と瀬戸芸の相互乗り入れがあったら本当に良いとは思いますが。万博と瀬戸芸は同時期にありますので、私が個人的に思っていたのは、チケットをそれぞれ同時に買えば何か安くなりませんかとか、例えばそういうセット売りができないのかとか、そういう方法もあり得ます。今の御意見も参考にさせていただきながら、瀬戸内国際芸術祭の実行委員会の方にもお伝えして、できるだけ何らかの連携、相乗効果ができるように努めていきたいというふうに考えております。

○ 池田知事

ありがとうございます。堺井局長何かあればお願いします。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

瀬戸芸の実行委員会の話が出ましたが、我々ともコンタクトが始まっておりまして、私も何度かお会いさせていただいております。具体的相乗効果を出す、相互誘客をするという話でいくとちょうど今、部長がおっしゃったような両方のチケット、要は間をつなぐ人が、交通事業者さんなどが必要になってきますので、まとまったチケット、まとまった商品売り出し、というところにお得感が出るようなものを付けていくとか、何かそういう形だと良いのではないかと思います。

こういうのは、安くなるっていうと、ちょっとやりにくいですけど、プレミアムをつ

けてあげるっていうと、やりやすい。そういう話もあればいいかと思います。

我々は、JNTOなどと一緒に海外に向けて相当PRします。その中で、瀬戸芸も一緒にPRして、この時期、日本に来たらどんなのがあるっていうことで、一緒にPRしていくとすごいのではないかと思います。

また万博会場の中で、我々、瀬戸芸だけをPRすることはなかなか難しいのですが、観光ポータルサイトのなかで、やはり意識して強く強調すべきイベントだなと思っています。だから、地域のイベントカレンダーなんかを作るのですが、例えばここにピカピカ光るような形で瀬戸芸を出すかもしれませんし、何らかの形のPRをいろいろやっていきたいなと思っていますので、また、アイデアを出し合いながら、できることは何でもしたいと思っています。

○ 池田知事

はい、ありがとうございます。よろしくお願いします。ほかにありますでしょうか。

○ 四国旅客鉄道株式会社代表取締役社長代理 藤本常務取締役

JR四国の藤本でございます。よろしくお願いします。交通事業者という話が出ていたので、マイクを持たせていただきました。

私もJR四国は、今、オール四国レールパスという海外の方向けの商品を作っています。これは、四国に来ていただかないと乗車券に変えられないという一番の課題があり、販売は当然WEBなどで行っておりますので、どこでも買っていただけますが、まだ時期としては少し早いかなと思ったのですが、一つの構想としては、JR西日本と協力しながら、四国に誘えるような商品を何とか造れないかなとは、頑張ろうと思っています。

特にそういった中での商品には、先ほど少し発言されていたような観光施設であるとか、いろいろなコンテンツがあり、それを持っていけば割引ける、参加できるというようなものも付加していければ、より魅力が上がるなというイメージは持っています。是非それに向けて努力していきたいと思っています。

そういった中でやはり販売というものは、JRグループで頑張りますが、問題になってくると思っています。先ほど説明があったポータルサイトなんかは、基本的に旅行商品であるとか日帰り型のものであるものが具体例として挙がっていましたが、切符の割引の商品といったものも、サイト上に載せていただくといったことは、想定としてはあるのでしょうか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

ポータルサイトに切符の割引だけを載せるのは、ちょっと違うかなと思っています。何かの体験プログラムとか、どこかの場所に行って体験するということに付加してチケットの割引をアピールしていただいたら良いのですが、例えば、体験コンテンツや日帰りツアーなどの商品を単品で求めようとしても、そこに行く移動手段が必要になって

きたりしますので、移動手段をどうしますか、万博会場からスタートしますか、別の広島などからスタートしますか、などいろいろあると思いますが、その際に移動手段を選べるようにはするのかなと、そこに割引あるよということも含めて交通手段の話が載ってくると良いのかなと。鉄道のみならず、飛行機もそうですけど、バスなんかもそうですが、船もそうです。そういう繋ぐ手段、どこから行くか分からないので、お客さんがどこから行くというところで繋いでいくというのがあるのかなと思います。

○ 四国旅客鉄道株式会社代表取締役社長代理 藤本常務取締役

ありがとうございます。私どもも、今、ポータルサイトには、別途参加させていただいていますので、具体案をもって御相談させていただきます。おっしゃった意味はよくわかります。ただ、旅行商品として売るか切符として売るかで、その売り方のハードルが大分下がっていく。簡単に言うと切符にするとすごく買いやすいけれども、旅行商品というのを売るためには、ちょっといろいろハードルがあるのではないかなと思って、今のことを申し上げたということです。また、その席でよろしく願います。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

我々、勝手にポータルサイトやっている、やろうとしているのではなくて、業界の方々と一緒に、どうしたら良いか議論しながらやっていますので、そういったところでもよろしく願います。

○ 池田知事

はい、是非JRさんも含めて、万博期のいろいろな商品、切符の単独のものもお願いしたいと思いますし、その広報に御協力いただければと思いますし、県でも、そういう交通全般について、切符のいろいろな情報は、一括して皆が見えるようなことも含めて考えていきたいと思っていますので、いろいろなツールと言うのでしょうか、切り口で考えていただくのと、それを宣伝するのと両方取り組んでいけたらと思います。よろしく願います。ほかによろしいでしょうか。

○ 香川県商工会連合会 篠原会長

商工会連合会の篠原です。万博は1日に15万人ぐらいの入場者が見込まれていますが、公共交通機関は大丈夫でしょうか。前回の大阪万博では、朝の開会ぐらいにはもう並んで、オープンを待って走って行ってたぐらいだったと記憶しています。やっぱり一つは、公共交通機関への懸念と、あまりお年寄り歩きたくないので、できるだけ歩かないようにして欲しい。入場券なのですが、18歳以上が大人として料金設定されているが、私は後期高齢者になりましたが、75以上にもなれば、そんなにたくさん会場を見られないので、もうちょっとお年寄りにも割引をしていただくとありがたいなと思って、代表して今言わせていただいております。

それとパビリオンも良いところは並んで、前回の大阪万博に行った時も良いところは見えなかったのもう暇そうではないところを見て帰った。そういうことがない

ように是非良いところなどをもう少し詳しく見られるように、お年寄りを大事にして、行ってまあまあ良かったのと言うぐらいに、今日せっかく協会から来ていただいたので、参考意見として考えていただければありがたいなというお願いでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○ **公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長**

大事な御意見だと思います。ありがとうございます。パビリオンに対して全部が全部できるかわからないですが、パビリオンの入場予約券を発行してもらおうとしています。

これはまだ検討中なのですが、例えば1日1ヶ所は、入場予約が出来て、その時間になったら行ったらすっと入れる、二つ目三つ目は場合によっては、1箇所をちゃんと見終わったならば、次予約できるようになる、そんなことはやろうと思っているのですが。もう1日中オンタイムで、次から次へと、というふうに組んでいくというのは難しいなと思います。そういう形で1箇所は、協力いただけるパビリオンについては入場予約できる、そんな形を考えています。

またお年寄りの方々は、移動も楽にできたらというふうに思いますし、それは車椅子だとかパーソナルモビリティみたいなところも入れていかないといけないなということで、今議論しています。最終的にそういったところも発表できるなと思っています。まだ、今こうしますということは言えない状態ですが、今回の御意見参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○ **香川県商工会連合会 篠原会長**

65歳以上は入場料タダ。万博もお年寄りを大事にして。是非お願いします。

○ **池田知事**

ありがとうございました。また、よろしくお願いいたします。

○ **公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長**

あと、交通アクセスの話が答え漏れていました。1日15万人、あるいはピークになると30万人、そんな方に来ってもらうことになります。

一気に朝から晩までとか、朝に全部集中するとは思っていませんが、やはりかなり集中すると、それで我々もそこが悩ましい点です。会場内へ入るアクセスで言えば、鉄道は一本しかありません。それとともに大阪湾の一番海側なのですが、そこに比較的近いところまでいく鉄道駅などがあったりして、そういったところから、シャトルバスを出すという形で、バスの運行が非常に大事だと思っています。

例えば新大阪駅から大阪駅など主要駅からバスを出す。また、会場への自家用車の乗り入れは遠慮いただくのですが、大きなパーキング施設を3つは用意して、そこに来ていただいて後、そこからバスでお運びすると。バスでお運びするときは、高速道路を通ったりしてスムーズに入ってくるようにしようとしています。いろいろな工夫をしながら、例えば「愛・地球博」は高速道路のネットワークがかなり整備されました。今回そ

もそも高速道路ネットワークは整備されている場所ではありますが、たくさんの人数をさばくには、いろいろな工夫をしなくてはいけないという認識をしていますので、それらを何とかやっつけていこうかなと思っています。

あと可能性として、船で来てもらうということも含めてですね、いろいろなシミュレーションしながら努力をしています。

○ 池田知事

御丁寧にありがとうございます。ほかにありますでしょうか。

○ 全日本空輸株式会社高松支店 細谷支店長

ANAの細谷です。今日はありがとうございます。

最近の飛行機を御利用になる海外のお客様の状況なども踏まえて、少し考えたところをお伝えしたいと思いました。

海外のお客様がここ数年でベジタリアンなど、食の指向が、非常にリクエストが多くなってきているというのを感じております。

先日のG7のレセプションに参加させていただきましたときも、ベジタリアンなどお肉を食べない方が多くいらっしゃって、日本人との違いを久しぶりに感じました。

旅行する時の大きなポイントの一つがやはり食の楽しみだと思うので、それがお肉食べられない人は、サラダしか食べるものはないとなってしまうと、旅行の楽しみが大幅に減ってしまうのかと思います。

旅行先を選ぶときに、おいしい食事が食べられるところというのが、宿泊地を決める大きなポイントになると思いますので、香川県を選んでいただくためにも、自分の食事制限に合った美味しい食事がちゃんととれることが重要になるかと思います。

G7のレセプションに私はたまたまで出席させていただいたので、実感として目の当たりにできたのですが、地域のレストランや飲食業の方々はそのような状況を知らない中で、万博に向けて違う方向で、メニューを開発してしまうともったいないので、海外の方の食の指向などを、事業者の皆さんにもしっかりお伝えしなくてはいけないのではないかと思います。

その上で、海外のお客様にアピールする用意も必要なのではないかと思います。

もう一つは、たくさんの方に香川を訪れていただきたい一方で、今、ホテル業界をはじめ、宿泊関係が人材不足で、満室で受入れることができない状況もあるかと思います。

これらの人材不足をどのように解決していくのか、もしお考えがあればお聞きしたいと思います。

ホテルや旅館が無理でしたら、民泊なども含めて検討する必要があるのではないかともし思いました。

以上です。

○ 池田知事

ありがとうございます。政策部長お願いします。

○ 新池政策部長

今大きく2点あったと思います。ベジタリアンということでの対応や、地域のレストランが万博に向けたメニューをどうするか、いろいろ多様性を持って取組みができるのかという趣旨かと思いますが、今までよくやってきたのは、いわゆるベジタリアンなどは、特別な国際会議があるときは、確かに準備してはいたけれど、一般的には、地元の県産食材を使ったものを分かっていたような取組みは、認証制度的なレストランを置いてやっていますが、そこまで民間さんに対するお願いというのを県としてはなかなか難しく、できてない部分があります。

瀬戸芸の前になって、ある程度外国人が来るということで取り組みますが、イスラムのハラールなどもまだまだ本県では対応が都会と比べてできていない状況でございます。何とか、少しでも工夫はしていけないといけないという認識はしています。

それから、もう1点が、宿泊、飲食系の人材不足ということでございます。これにつきましては、コロナの時に、宿泊業や観光業から他の業種に人が移って行ってしまった、なかなか戻ってこない、どうしても人が戻ってくるのにタイムラグがかかっていますので、今でもまだ休業や、やりたいけれど人がいないので、事業縮小しているということがございます。

そのあたりにつきましては、ある程度、国や地方公共団体も対応はさせていただいておりますが、すぐに戻るといことが難しいことだと思いますので、このあたりは、あと2年ぐらいしたら、一定は戻ってくるのではないかなと思っている次第でございます。

○ 池田知事

嬉しいことなのですが、やはり2025年は、瀬戸芸とまた大阪・関西万博と総文祭（全国高等学校総合文化祭）というものもありまして、大規模イベント目白押しになるので、細谷さんおっしゃるように宿泊のそもそもの絶対数、心配もありますので、民泊の話もありましたけど考えていけないといけない問題と思っております。ありがとうございます。ほかにありますでしょうか。

○ 香川県商工会議所連合会 泉会長

アクセスで船みたいな話もあって、香川県さんなのかもしれませんが、なかなか商売ベースでは難しいし、船自身があるのかなのか、新聞等にはそういう話があるのですが。特に高松辺りとの船の話っていうのは、何か勉強しているって話も聞くのですが、どんな感じなのですか。

○ 新池政策部長

御要望や御意見などでも、会場と直接、高松あるいは小豆島等と結べるのではないかという御提案等をお聞きしたので、我々もいろいろ、船がまずあるのかということで、どうしても播磨灘という非常に波が高い海域があり、そこを通れる船というのが、ある程度限られるというのが、我々勉強してまずわかりました。

設備を整えていない船では運航はできず、播磨灘を渡れるように作っていないといけな

いので、そういった船をいくつか当たってみたのですが、今は予定が空いていないとのことでした。

それから、高速バスやJRで行くというのと比べて、やはり時間的な問題があり、高速艇の一回り大きいクラスの小型船であっても、やはり3時間余り高松と万博会場で運航に時間がかかるということで、本当に走った場合にニーズがあるのかということも、いろいろな方々から御意見聞いているところでございます。

それからあと乗り心地の問題があります。それについては、今調査研究等はしていますが、今申し上げたいいろいろな課題がございますので、臨時船あるいはツアーみたいなものでもできないかというようなレベルで、今考えさせていただいているような状況でございます。

○ 池田知事

ニーズはありそうなのですが、なかなか今みたいな課題があり、今でも諦めずにやっておりますが、ひとつは、兵庫県と先日、連携会議をやりまして、姫路から西なら、比較的、播磨灘を越えなくて良いということもあって、兵庫県もそういう意向もあるようで、そういったところは、トライアルはできそうかなということは出て来ておりますが、ちょっと万博会場までということになってくると、もう一捻り、知恵というか、やってもらえるという事業者が出てくるのが一番大事なのですが、あきらめずに勉強していきたいと思います。他にありませんでしょうか。筧学長、いかがでしょうか。

○ 香川大学 筧学長

ミャクミャクという、とりとめもない話で申し訳ないのですが、気になってしょうがないので、とうとう知事がふっていただいたので聞きますが、これ、どうやって決められたというか、何を狙っているのかっていうことをお聞きしたい。ミャクミャクっていうと僕らで言うと、血管みたいなものですね。そのようにも見えるけれど、こんなことで時間取ってすいません。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

決めたのは、完全公募で決めました。ちょうどポスターを横に貼っていますが、左側のものが万博のロゴマークとして、公募した時に出していただき選ばれた。これは、ロゴマークとしては、左右対称のものなど、そういうものが多い中で、見たことが無い、これはすごく大阪・関西万博のテーマにも合っているという評価があり、これがまず決まりました。

そのあと、キャラクターを募集する話になり、このロゴマークを意識した形で作ってくださいという話をしたのですが、かなりいろいろなものが出てくる中で、最後、まさにロゴマークを上からはめたものが残って、それが選ばれたのですが、実はこれも審査員の方の中で、かなり票が割れました。最後、強力的に、これでいかないと成功しないぞと、すごく強い言葉をおっしゃった方がいて、それが惹きつけたということで決まりました。

その次に、この名前を募集しました。これは何と想起させるかでミヤクミヤク。カタカナでミヤクミヤク。ミヤクミヤクを付けた方が、応募者 33,000 人ぐらいの中で 2 人いらっしゃった。二人とも女性なのですが、名前とか発表しているのだけれど、一人は大学生でしたが、そういう中で、いろんな歴史文化を脈々と繋いでいくという、万博でそういう役割あるよねっていうのと、あと色が動脈と静脈の色に似ているということもあって、そういう形になりました。

ロゴマーク自体、今にも動き出しそうな、細胞が動き出しそうみたいなそんなコンセプトもあったので。そういったものを想起させる。それでいくと、血管血液のミヤクミヤクと言う話もあったりしました。

そんな流れなのですが、実は何を狙っているかって、万博協会に言われたときに、なかなか難しいのですよ。そのメッセージがあって、それをロゴマークにしたりキャラクターにしたりというよりも、公募でやった中で、良いものをその審査員とともに選ばせてもらったという形でして、日本の素晴らしい技術、文化、歴史を脈々と繋いでいくきっかけとなるのが万博だとか。いのち輝く、いのちに繋がるようなことを表しながら、これが長い間、永遠に繋がるような、そんなことをこの万博で知恵を出して、世界中に広めていきたい、そんなメッセージを込めているのかなど。公式見解ではありませんが、私の思いも含めて申し上げさせていただきました。

○ 池田知事

会議の後には一緒に記念撮影もあります。よろしくお願ひします。他にありますでしょうか、佐伯会長いかがですか。

○ 四国経済連合会 佐伯会長

堺井局長にお聞きしたいのですが、ここ香川県で、万博、ここは香川県がターゲットになって、香川県との繋ぎということで、今日は議論が進んでいますが、他の県が、例えば徳島であったり、奈良であったり和歌山だったりっていうところがありますよね。

そういう皆さん方も、この機会にということがあると思うのですが、そのあたりの各県、各エリアの皆さん方も、いろんなアイデアを持っておられると思うので、そのあたりを聞き取られるという機会があると思いますが、そのあたりを、うまく、いろいろなアイデアを水平展開するような形で、私ども香川県に対しても、ちょっとアドバイスをいただくようなアプローチもしていただけるとありがたいかなと、こんなふうに思いました。以上です。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

今の御発言に答えさせていただきますと、例えば徳島県は、徳島「まるごとパビリオン」という形で、徳島県に来ていただいたら、こんなところに行くところがあるよというのを、すべてパビリオンと評しながら、示そうとされています。それは地域、地域でやっぱり特徴があるのですが、共通して一つに絞るってことも難しいし、それぞれを見せたいというのがあって、それにされたと思います。

また、兵庫県は、フィールドパビリオンという言い方をしています。県内のそれぞれのところが、募集されて、150 ぐらい出てきた、それぞれの地点でまずはここに来て貰ったら良い。兵庫県というフィールドの中に、パビリオンがいくつもあるよということで、そこで何をしてもらえるかという話を提示しています。

香川県さんも、そういう形にされてもいいかもしれないし、あるいは特色を出して、やっぱり島であり、自然であり、アートであり、食であり、あるいはお遍路さんみたいな宗教文化かもしれませんが、伝統の文化であるとか、何かそういうのを、ちゃんと打ち出してやっていく。

あまりたくさんとなると、やっぱり散らばってしまって、いけないなと思ったりするので、やはり核を設けながら、そこにお客さんにまず集まってもらう、でもそれだけじゃないよってこういうのもあるといった形で強弱をつけるということもあるかもしれません。

各地域で、これで行くのだと決まっているところはそれでいけるのですが、そうでないところは結構悩んだりするかもしれません。

でも最後は、やっぱり海外の方を中心に、これを見てもらう、それに集約して、本当に来てもらって、あと展開していくっていうところに焦点を当てながら、進めて行かれるのが、間違いないものだと思います。

それするのも大変だと思うのですが、まさに、やはり県を、香川をPRする、ブランドを高めるといったところ。普段から取り組まれているところを、まさに強く打ち出すってことだと思っております。

○ 四国経済連合会 佐伯会長

四国全体を見ている立場があるので、私ども四国経済連合会は常に、キャッチフレーズで四国は一つとやっていますが、そういった意味でいうと、各県ごとにという特徴は生かしつつも、四国という単位で、それを海外に向かって、PRをしていくとこういうようなことを目指していくという意味では、ある程度共通したものっていうのを、水平展開するっていうようなアプローチもあるのかなというふうな発想から、ちょっとお聞きをしたというかお願いをしたということでございます。

○ 池田知事

はい。ありがとうございます。四国4県とも共有をしてみるというのは大事で、うまく何か、一体で訴えていければ良いと思います。

国から、原局長はいかがですか。

○ 四国経済産業局 原局長

ありがとうございます。日頃から万博協会といろいろ情報共有もしていますし、四国経産局自身も、共創パートナーとして、早々と登録させていただいて、私の立場も佐伯会長と一緒にですが、四国4県全部を見ていて、例えばオープンファクトリーとか、そう

いう取組みもやっていますね、SDGs という一つの切り口で、四国の企業が頑張っているぞというのを見せるような機会をうまく作れないかなと、いろいろ考えています。

特に香川県さんとの関係では、もう本当に瀬戸芸がいいタイミングでありますので、これが万博イベントと相乗効果が出てくると良いなと思っています。これは香川県さんといろいろ連携をさせていただきながら、各基礎自治体の皆さんとも連携をさせていただけないかなとも考えています。まさにこのメンバーの皆様が深く関係してくると思っていますので、もう大分御意見が出ています中で、集約されてきているのではないかなというふうに思いますけども、経済産業局も運輸局とも連携していますし、農政局とも連携していますし、いろいろなところと連携しながら、質の良いPRができるように支援をさせていただけたらなと思っています。

引き続き、万博協会共々、頑張りますのでよろしくお願いします。

○ 池田知事

ありがとうございます。その他ございますか。よろしいですか。

そうしましたら大変たくさんいろいろな切り口から、必要な意見をいただきまして、ありがとうございました。

また堺井局長には、御丁寧に御対応いただきまして、本当にありがとうございました。

今日の意見は、この10月を目途にアクションプランを作りますけれども、その中に反映をしていきたいと思えます。そしてこれからも会員の皆様には、情報発信・交流促進にそれぞれのお立場から、是非積極的な御協力をいただけますように重ねてお願いを申し上げます。よろしくお願いいたします。

それでは今日の議事は、ここまでとさせていただきます。

○ 事務局（政策課長）

本日は有意義な御意見、御提言をいただきまして、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、香川県大阪・関西万博推進協議会の第1回の会議を、閉会いたします。

会員の皆様方、それから万博協会の堺井局長様におかれましては、御多用のところ、誠にありがとうございました。

冒頭申し上げました通り、せっかくの機会でございますので、ミヤクミヤクとの記念撮影を行った上で、閉会とさせていただきたいと思えます。

※公益社団法人2025年日本国際博覧会協会による発言の内容等については、2023年9月6日時点の情報であり、今後、変更の可能性があります。